

動物用医薬品副作用症例報告 (平成17年12月分)

薬事法第77条4の2に基づく動物用医薬品副作用症例報告を次のとおり掲載する。

医薬品の名称 (製造(輸入)業者名)	副作用発現動物						副作用等発現の概要及び転帰							
	種類	性	年齢等	投与前の健康状態・疾患等	関連医薬品の投与歴等	既往歴	副作用歴	投与量・投与方法	投与年月日	併用薬	副作用発現年月日(投与後時間)	副作用等の種類	講じた処置	転帰
“京都微研” キャナイン-8 (ジステンパー・犬アデノウイルス(2型)感染症・犬パラインフルエンザ・犬パルボウイルス感染症・犬レプトスピラ病(カニコーラ・コペンハーゲニー・ヘブドマディス)混合ワクチン) 譚微生物化学研究所 製造番号: 61	犬	雌	3月齢	健康	なし	なし	なし	1ml/頭, 皮下注射	平成17年12月20日	なし	平成17年12月20日	アレルギー反応, 顔面腫脹, 掻痒, 嘔吐 注射約1時間後に飼い主宅に帰宅してから嘔吐と顔面の掻痒, 腫脹及び発赤が認められた。	治療 プレドニゾンSC, ジフェンヒドラミンSC	回復
<p>《企業の意見及び対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当獣医師: 接種直後に発症。併用薬は無し。投与以前及び後に類似の症状の発症はない。以上より症状発現直前に接種した薬剤との因果関係を強く疑う。 ・企業: ワクチン注射1時間後に嘔吐, 顔面腫脹, 掻痒, 発赤を示したことから, ワクチンによるアレルギー反応が考えられる。添付文書の「対象動物に対する注意」には, 副反応欄としてアレルギー反応またはアナフィラキシー反応を起こすことがある旨記載し, 注意を促しているところである。今回の場合, 獣医師の適切な処置が功を奏した例と考えられる。 ・対応: 今後とも安全性及び副作用に関する情報について, より注意深く情報を収集するように努める。 														

家畜衛生週報 (No.2925) より